

DATA FILE



斜方晶系

名前	DANBURITE (ダンビュライト) / ダンブリ石
化学組成	$\text{CaB}_2\text{OSi}_2\text{O}_7$
色	無色
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	なし
断面	貝殻状
硬度	7
比重	2.97 ~ 3.02

ダンブリ石

DANBURITE

タ

接触交代鉱床などに生成するダンブリ石は、世界中で見られるが、産出量は少ない。

無色透明で、ガラスのような光沢を持っている。

イタリアで産出した柱状のダンブリ石。

素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

「ダンブリ石」という名前は、1839年にこの鉱物が最初に発見されたアメリカのコネティカット州にある「ダンベリー」にちなんでいる。

断面が菱形の柱状をしていることが多いが、結晶形がはっきりしないときは、小さな結晶形が集まって塊状になることもある。



トパーズに酷似

無色透明でガラス光沢を持つダンブリ石は、かつてはダイヤモンドの代用品として利用されていた。また、柱状のものはトパーズに酷似しており、その見分け方は、比重を調べるのが最も簡単。3.49～3.6であるトパーズに比べ、ダンブリ石は2.97～3.02と小さい。そのほか、完璧な劈開を持っているトパーズに対し、ダンブリ石は劈開がないことでも判別可能。さらに、トパーズは熱にも酸にも溶けないが、ダンブリ石は炎にかざすと緑色の炎を出して溶解し、熱した希塩酸に入れると溶けてゲル状になる。

タ ダン ブリ 石



▲無色のダンブリ石。

▶スイスで採れたダンブリ石の柱状結晶。

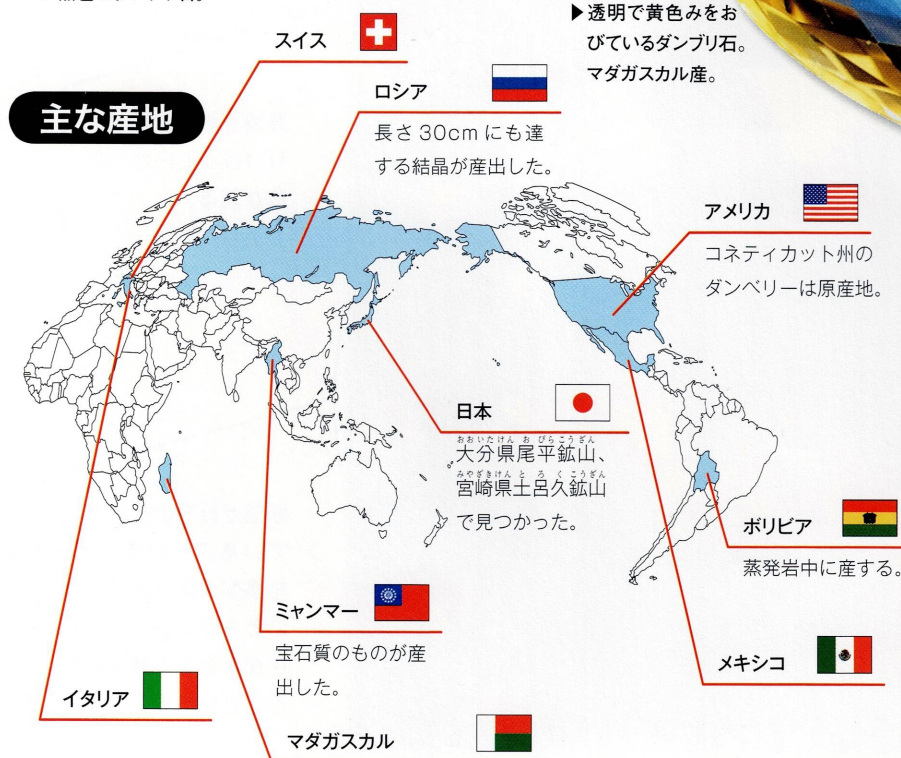


ホウ素を含むケイ酸塩鉱物

ダンブリ石は、斧石やダトー石、電気石などと同様、カルシウムとホウ素を含むケイ酸塩鉱物。このグループの鉱物は、一般的に、化学組成が単純なものほど産出しやすい。しかし、ダンブリ石の場合、他のものと比べて単純な化学組成ではあるが、より多くのホウ素を必要とするため、産出量は少ない。



▲ファセットがきざまれたダンブリ石。マダガスカル産。



▶ダンブリ石の柱状結晶。イタリア産。